第７号様式

学位審査結果報告書

学位申請者名	宋　謙	学生番号	27039004	専攻名	観光学専攻
論　文　題　目	中国における資源型都市の再生に関する学際的マネジメント研究 ―炭鉱都市・棗荘の再生戦略を中心に―				
論文審査及び最終試験の成績（表記は合格又は不合格とする。）				合格	

審査委員会

主　査　辻本勝久　印　　委　員　足立基浩　印

委　員　小野寺淳　印　　委　員　王妙発　印

［論文審査の結果の要旨］

1. テーマ

鉱物資源等に依存する資源型都市は、失業対策、環境回復、都市基盤整備等において複雑な問題を抱え、持続可能性が問われている。そうした資源型都市は世界各地に分布しており、そこに暮らす人口も膨大である。従って、本論文のテーマである資源型都市の再生は、中国のみならず、全世界的な困難かつ重要な課題であると考えられる。

申請者は、複数の学問分野にわたる日本語・英語・中国語の先行文献をレビューした上で、資源型都市再生に向けては、単一学問分野からの対症療法的なアプローチから複数学問分野を統合した学際的なマネジメント研究への発展が必要ではないか、との明確な問題意識に立って本論文を執筆している。

このように本論文のテーマは重要かつ明確なものと評価できる。

2. 構成力

この論文は３部８章で構成されている。

第１部は序論であり、第１～３章で構成される。第１章で資源型都市や資源枯渇型都市の定義や現況整理がなされ、第２章では関連する先行研究レビューが綿密になされている。その上で、第３章において、学際的マネジメントの考え方が提起される中で、本研究の位置づけが明確化さ

れている。

第2部は各論であり、第4～6章で構成される。ここでは、地域政策学、観光学、都市計画学の各視点ごとに章が立てられて、中国の資源型都市である棗荘の都市再生戦略に関する分析がなされ、その意義と課題が論じられている。

第3部は結論であり、2章構成となっている。まず第7章において、第2部をふまえ、学際的マネジメントの意義の再確認が行われた上で、資源型都市再生を進めるためのプラットフォームとして、地域政策・観光・都市計画の諸分野が連携した「学際的マネジメント基盤」が提言されている。続く第8章では、資源型都市の再生に関する課題と今後の展望についてのまとめがなされている。

以上のようにこの論文は、序論、各論、結論の順に、十分な論理性・体系性を持って執筆されている。提出者がネイティブではないこともあって、若干の読みにくさがあり、また序論、各論に比べて結論がやや簡素な印象はあるものの、全体としての構成力に致命的な問題はないものと考える。

以上のことから、この論文の構成力は、博士学位論文の水準に達していると言える。

3. 独自性

申請者は「従来、資源、型都市の再生問題研究は一つに体系化されていたわけではなく、関連した知見を多様な視点から散発的に提示してきた学問である」と認識した上で、「成長のない経済社会」（新常態）においては一分野における都市再生の達成はもはや不可能とし、「資源型都市の経済的および社会的発展モデルの変革を図るため、学際的マネジメントを提起したい」としている。

複雑な地域再生課題に、複数の専門分野の知見を統合して学際的に対処する、という考え方自体に新規性はないものと考えられる。また、用いられているSWOT分析、マトリックス分析といった手法にも新味はない。

しかしながら、中国の資源型都市の再生に焦点をあてて、地域政策学・観光学・都市計画学を統合した学際研究を行ったという点では一定の独自性を認めることができる。

4. 位置づけ

申請者は第2章において、産業クラスター戦略や内発的発展といった地域政策論、地域文化観光論および都市計画論の諸分野について、資源型都市再生に関わる先行研究の理論的な整理をしっかりと行っている。この作業は、日本語文献、英語文献、中国文献を対象として網羅的に行われており、対象とする分野および言語の広域性の点で高く評価できる。

その上で申請者は、当該研究の座標として、「資源の活用のみならず、行政と地域住民、企業、社会団体間の連携を図りつつ、都市の内発的発展と行政改革とが相互に作用する仕組み」を備え

た計画的取り組みによる資源型都市再生を提起している。この提言は、資源型都市再生に向けた中国のこれまでの施策を、「人間本位思想」「都市地域の特殊性重視」「資源問題の社会問題への取り込み」といった方向で発展させせようとするものであると評価できる。

5. 達成度

申請者は、これまでの資源型都市再生が、個別分野から対症療法的に行われてきたことに問題意識を持ち、複数分野を融合した学際的マネジメントの提起を目標に掲げて研究を進めた。

申請者は結論部で「地域政策学、観光学、都市計画学分野ごとの優位性を発掘し、それを活かした取り組みを都市再生の枠組みに取り込み、都市空間に高い質を植え付ける協働体制を構築することが期待できる」とし、地域マネジメント基盤の枠組みを提起している。しかしながらこの提案はやや抽象的な段階にとどまっており、たとえば棗荘の今後の都市再生における適用などの具体的内容が不足している。ただしこの点は学位取得後に引き続き取り組むべき課題であると考えることができる。

以上のように、今後のさらなる進展に期待すべき点はあるものの、中国の国情などの要因により詳細なデータを収集しにくかったであろう中、先行研究レビューをしっかりと行い、事例考察を堅実に進め、的確な議論を展開して，資源型再生の総合的な実践を提起したという点で、学術的・社会的意義は大きく、博士学位論文として十分な達成度にあるものと評価できる。

6. 貢献度

資源型都市は失業対策、環境回復、都市基盤整備等において複雑な問題を抱え、持続可能性が問われている。そのような資源型都市の再生に向け、本研究は、地域政策学、観光学、都市計画学を基盤とした学際的マネジメント基板の構築と、環境・社会・経済面に配慮した体系的な施策展開の重要性を提起することができた。この意味で、実践への応用可能性は高いものと考えられる。

また、観光学研究に対しては、地域政策学や都市計画学と連携して地域課題解決に貢献するという方向での深化の可能性を示すこともできている。

以上のことから、本研究の観光学研究の深化や実践への応用可能性については高く評価できる。

［最終試験の結果の要旨］

実施日時　令和3年1月29日　10時00分～11時00分

実施場所　Zoomによる遠隔開催

最終試験では、まず申請者による論文要旨の説明がなされ、続いて論文の内容に関する質疑応答が行われた。

審査委員から、論文の副題に関する質問、論文概要の加筆提案、いくつかの図表のタイトルや内容に関する修正提案、統計データの更新要求、資源型都市発展段階の区分に関する修正提案、現地調査方法に関する補足説明の要求、論文における「マネジメント」の意味に関する説明の要求、OTA・UGC・DMO を取り上げる趣旨の説明の要求、中国語法令用語の日本語訳の統一に関する要求、マトリックス分析の背景に関する説明の要求、ケーススタディ対象の選択理由に関する説明の要求、いくつかの用語に関する変更や再検討の要求があった。

これらの質問・要求について、審査委員会はその場で申請者に回答させた上で、10日間の猶予を与えて、修正論文の提出を求めた。その結果、申請者より期日までに修正論文の提出がなされた。

審査委員会は、以上の論文審査と最終試験の結果を総合的にみて、合格と判定する。